



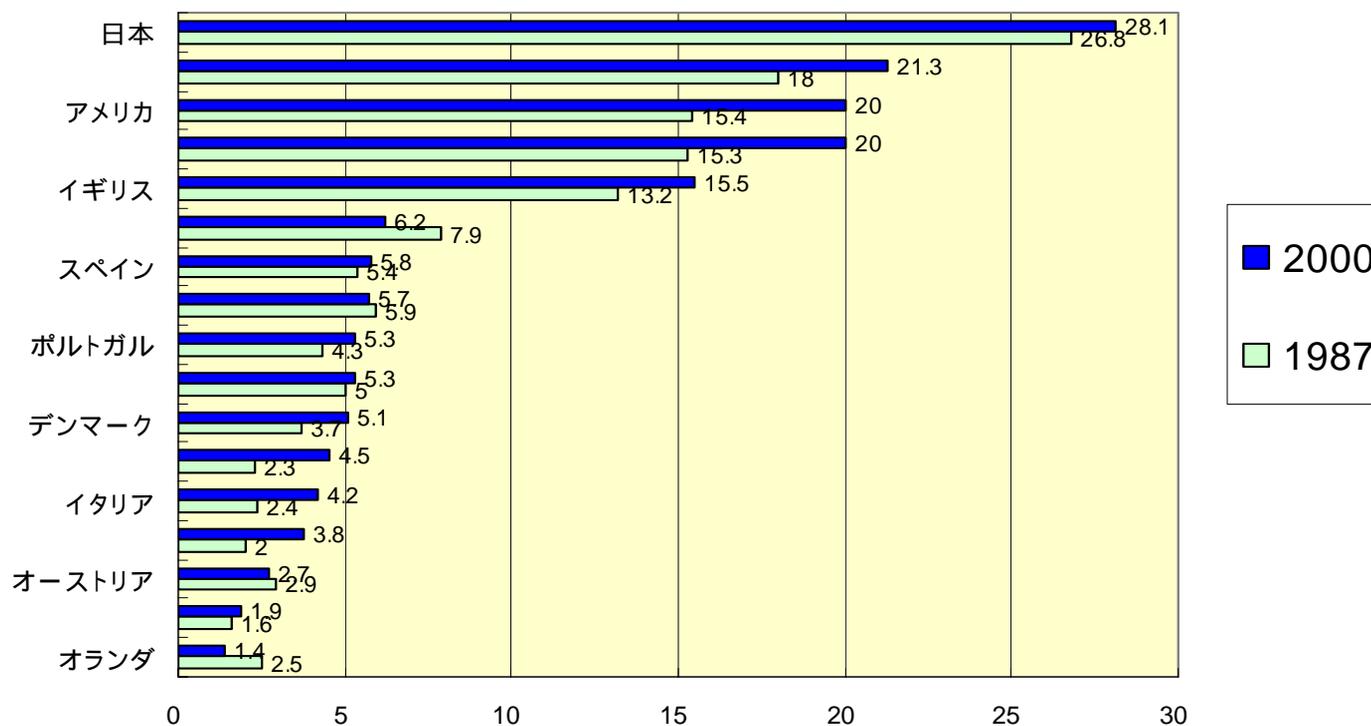
日本の労働時間の実態

～ワーク・ライフ・バランスに向けた課題～

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
小倉一哉

国際比較

図1 週に50時間以上労働している就業者の比率 (%)



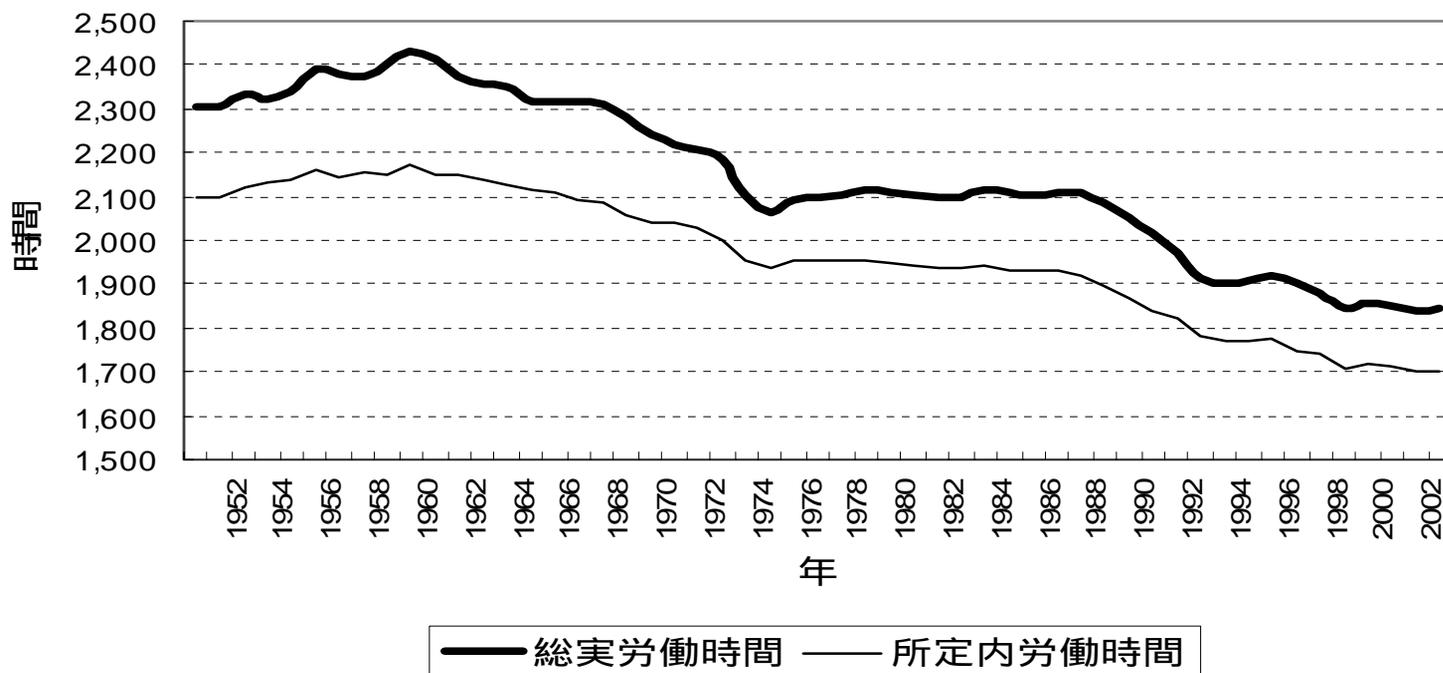
J.C.Messenger ed. *Working Time and Workers' Preferences in Industrialized Countries*, Routledge, 2004.より

日本における労働時間問題の経緯

- 1980年代、国際的に見た長時間労働が問題となる
- 1987年の労働基準法改正で週40時間が次第に定着
- その他、金融機関や公務員の完全週休2日制、「祝日法」の改正などで休日は増加した
- しかし、長時間労働・サービス残業と年休の未消化は一向に改善されていない

日本の労働時間の長期動向

図2 総実労働時間・所定内労働時間の推移



注1: 事業所規模30人以上の数値
注2: 総実労働時間 所定内労働時間の年数値は、月間平均値を12倍して算出されている。
資料出所: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」。

長時間労働者の比率

表1 性別・年齢階層別に見た週間就業時間が60時間以上の雇用者の割合(%)

男性	1993年	1994年	1998年	1999年	2003年	2004年
15～19歳	6.3	7.2	5.1	5.1	5.8	5.1
20～24	12.1	11.6	12.0	12.3	13.1	13.0
25～29	17.8	18.0	17.8	18.8	<u>20.5</u>	<u>20.2</u>
30～34	19.4	18.9	<u>20.1</u>	<u>21.8</u>	<u>23.2</u>	<u>22.7</u>
35～39	18.9	19.1	19.5	<u>20.9</u>	<u>23.5</u>	<u>24.0</u>
40～44	17.3	16.6	18.0	18.9	<u>22.2</u>	<u>21.9</u>
45～49	15.7	14.9	14.9	16.2	19.2	19.6
50～54	13.6	13.7	13.5	14.0	15.3	16.1
55～59	11.1	10.8	11.0	11.5	13.2	13.0
60～64	7.7	8.0	8.3	8.3	9.8	9.1
65～	6.4	6.3	5.4	5.8	7.1	6.7
女性	1993年	1994年	1998年	1999年	2003年	2004年
15～19歳	2.4	3.2	2.0	2.6	2.1	1.8
20～24	3.6	3.7	4.0	4.1	5.2	5.7
25～29	4.0	4.2	3.9	4.2	5.3	5.4
30～34	3.0	3.5	3.5	3.7	4.2	4.4
35～39	2.6	2.8	3.0	3.1	3.3	3.5
40～44	3.2	3.0	2.6	2.7	3.0	2.8
45～49	3.6	3.8	3.0	3.3	3.3	3.5
50～54	4.3	4.3	3.7	3.6	3.7	3.6
55～59	4.5	4.5	4.0	3.9	3.9	3.7
60～64	4.3	5.1	3.9	4.0	4.1	3.8
65～	5.9	5.3	4.5	4.0	4.6	4.4

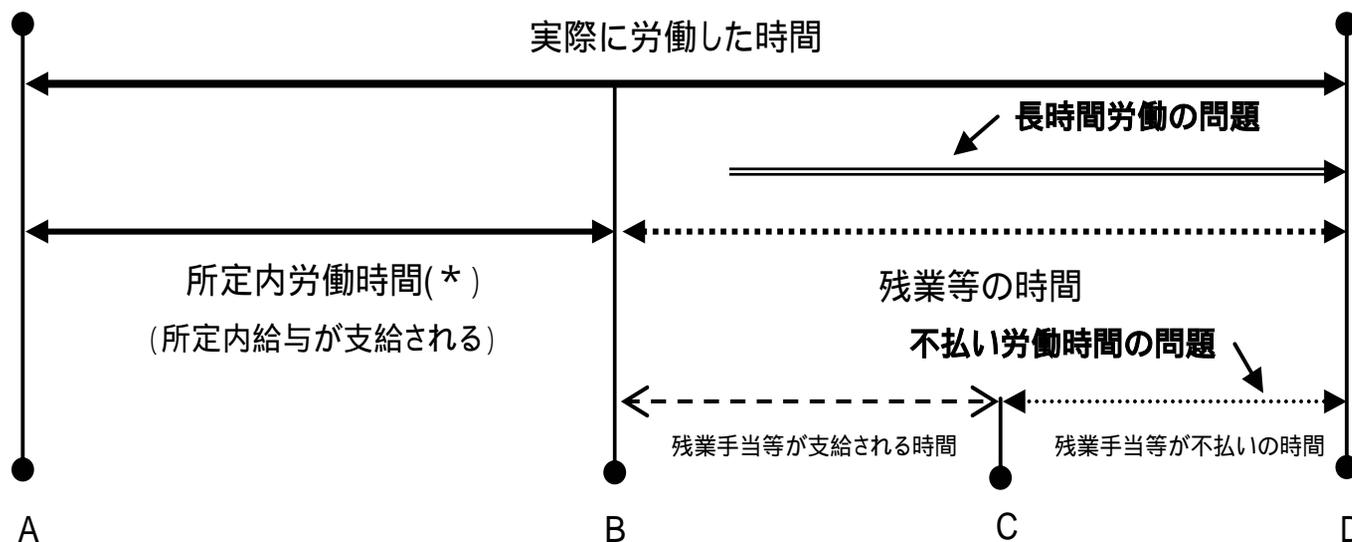
資料出所：厚生労働省「労働経済白書」平成16年版、平成17年版より。

注1：総務省「労働力調査」原データを厚生労働省が特別集計した値につき、表記の年次のみ。

注2：下線は20%を上回るものを示す。

長時間労働と不払い労働時間の関係

図3 長時間労働と不払い労働時間の関係概念図



*ただし、法定労働時間より短い所定内の場合に所定内を超える部分に残業手当を支給しなくても良い。

長時間労働に関するJILPTの調査結果について

JILPT「日本の長時間労働・不払い労働時間の実態と実証分析」(2005年)より

表2 2004年6月の労働時間の状況

	総労働時間 (時間)	超過労働時間		超過勤務手当 支給時間 (時間)	不払い労働時間		休日出勤 日数 (日)	前年6月より労働 時間が増えた者の 割合(%)	持ち帰り残業の ある者の割合 (%)	
		時間数 (時間)	50時間を超える 者の割合(%)		総平均 (時間)	不払いのあ る者のみ				
計	198.9	31.6	21.3	14.1	16.6	35.4	1.0	22.3	28.8	
性別	男性	205.4	36.9	26.4	17.2	18.9	38.1	1.1	23.2	30.1
	女性	185.7	20.8	11.2	8.4	12.1	29.4	0.8	20.4	26.1
年代	20代	202.5	35.6	23.8	16.3	18.2	37.3	1.2	26.7	26.3
	30代	204.3	37.7	27.2	15.7	20.0	40.1	1.0	24.2	34.1
	40代	197.0	30.9	21.1	13.7	16.5	32.0	0.9	23.6	31.8
	50代	191.9	22.1	13.3	9.8	9.9	28.4	0.8	14.9	23.1
職種	総務・一般事務等	187.1	22.2	13.4	11.9	11.1	26.2	0.7	20.1	21.4
	営業・販売、接客	206.6	36.4	25.1	9.1	25.1	42.1	1.1	25.2	36.1
	専門職	203.5	38.7	28.4	16.5	20.3	39.7	1.1	26.4	41.6
	製造・生産関連	200.0	29.0	19.2	18.5	10.2	29.1	1.0	18.9	14.0
	その他	190.7	27.5	16.1	12.1	16.3	36.7	0.7	15.5	29.1
役職	一般社員	197.1	29.1	19.0	13.7	15.1	34.7	0.9	22.2	23.5
	係長・主任	199.8	36.4	25.8	15.3	20.6	37.0	1.0	22.7	37.0
	課長クラス	207.9	38.8	28.6	--	--	--	1.2	21.9	41.1
	部長クラス	206.3	34.6	22.9	--	--	--	0.8	24.3	38.6
	その他(役員等)	199.1	25.0	15.9	--	--	--	1.2	14.5	39.1
産業	建設業	204.4	33.9	26.1	13.4	17.6	34.6	1.2	20.7	23.7
	製造業	198.2	33.5	23.5	20.0	12.3	31.1	0.9	23.9	23.5
	電気・ガス・水道・熱供給業	190.4	20.6	12.9	13.7	4.7	14.5	1.3	20.0	14.3
	運輸・通信業	202.8	31.7	22.0	19.4	11.7	34.4	1.0	20.0	23.0
	卸・小売、飲食店	201.8	30.9	20.2	8.2	22.4	35.4	1.0	23.2	34.2
	金融・保険業、不動産業	194.1	30.7	20.5	11.9	18.7	38.7	0.8	17.5	28.1
	サービス業	200.5	32.9	21.9	13.7	19.9	40.2	1.0	24.6	31.1
	公務	198.0	30.8	21.0	9.8	20.7	37.7	1.1	23.0	38.6
	その他	193.5	27.4	15.8	8.7	17.4	37.8	0.9	18.7	28.0
	従業員規模	29人以下	197.5	22.4	14.8	6.7	15.0	31.0	1.0	19.5
30～99人		204.1	33.4	22.0	12.6	20.5	39.6	1.0	22.2	30.5
100～299		200.4	35.2	24.1	14.4	19.6	41.8	1.0	21.4	28.6
300～999		199.1	35.6	23.8	15.4	17.6	36.4	1.0	23.5	25.4
1,000～2,999		196.9	33.2	23.1	18.3	14.6	33.7	0.9	23.5	34.0
3,000人以上		197.0	33.2	22.8	18.1	14.0	32.9	0.9	23.8	29.0

注1: 「超過勤務手当支給時間」及び「不払い労働時間」については、課長クラス以上の管理職を除いた数値である。

注2: 「持ち帰り残業のある」とは、「よくある」と「ときどきある」の合計である。

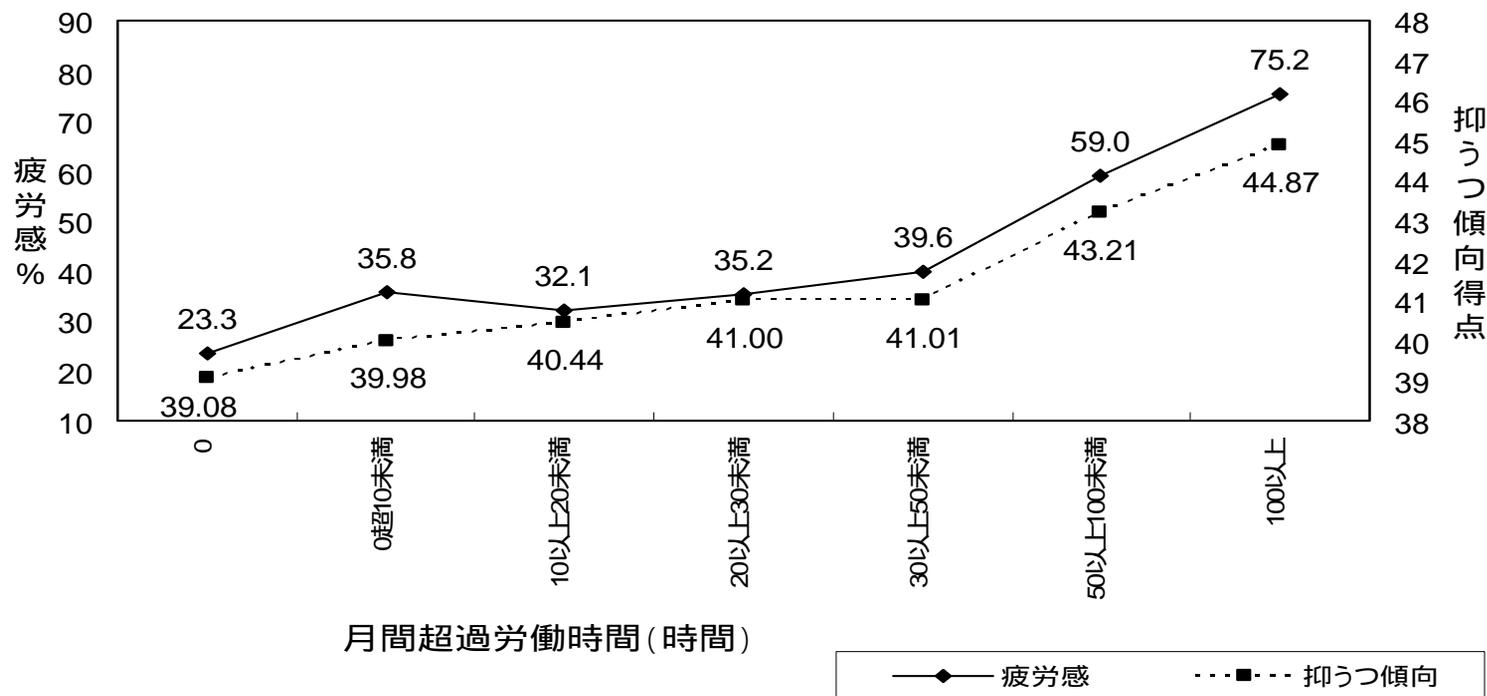
不払い労働時間に影響する要因

- 性別、年齢
- 総労働時間
- 職種(営業・販売、専門職は+)
- 業種(卸・小売業、サービス業は+)
- 出退勤管理方法(ホワイトボードへの記入は+)
- 長時間対策(ノー残業デー、長時間の者への注意等は-)

長時間労働に関するJILPTの調査結果について

JILPT「日本の長時間労働・不払い労働時間の実態と実証分析」(2005年)より

図4 月間超過労働時間と疲労感・抑うつ傾向



注1: 疲労感は、「一日の仕事でぐったりと疲れて、退社後は何もやる気になれない」に「いつもそうだ」「しばしばある」と回答した人の比率。

注2: 抑うつ傾向得点は、Zungによる抑うつ状態に関する20項目の設問の合計点で、得点の範囲は20～80点。

「過剰適応」について

表3 会社に対する態度と過剰適応徴候

	業績を上げ会社 のために尽力し認 められたい (N=439)	無難に勤めて人 並みに会社のため になろうと思う (N=660)	生活や自分の人 生のためであり特 に思い入れはない (N=1427)
仕事の忙しさ （「いつもそうだ」）（%）	26.9	17.9	23.6
仕事の事が頭から離れず （「いつもそうだ」）（%）	13.9	8.0	7.1
仕事によるぐったり疲労 （「いつもそうだ」）（%）	13.0	10.8	17.2
抑うつ傾向得点（注1） （F = 27.734, p < .001）	39.4	41.1	42.7
業績不振、ノルマ未達成（注2） （F = 15.562, p < .001）	1.47	1.26	1.23
重大な仕事上のミス（注2） （F = 2.108, 有意差なし）	2.16	2.13	2.08
2004年6月の総労働時間 （F = 6.701, p < .000）	205.3	193.1	199.5

注1: 抑うつ傾向得点の範囲は20～80点。

注2: 業績不振・ノルマ達成と重大な仕事上のミスは、「何ともない」「少し大変」「かなり大変」「非常に大変」の4択で0～3点。

～まとめ～

- 先進国中最長の長時間労働大国
- 恒常的な残業
- 不払い労働時間
- 業種・職種等の相違
- 勤務時間の管理方法の相違
- 過剰適応の問題
- ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた課題は多い。